



3つ子のとびばこ



にし はる

今日は、ハート王国小学校のうんどう会。

3つ子のきょうだい、クータ、ウェイタ、シェンタも、1年生になってはじめてのうんどう会で、とてもはりきっていました。

いよいよ、1年生のとびばこのじゅんばんです。

よーい、ドン！

3人はいっせいにスタートしました。

まわりで、かぞくやともだちが「フレー！フレー！」とおうえんしています。ところが、

ドテッ！ ドテッ！ ドテッ！

なんと、3人ともころんで、しっばいしてしまったのです。

この日から、3人は、とびばこが大きらいになりました。

クータは、まいにちおもいだしては、クヨクヨしていました。

「みんなが、あんなにおうえんしてくれていたのに。

とべなかったぼくは、なんてなさけないんだらう。

ああ、あのときのことをおもいだすと、あなに入りたいくらいはずかしいよ。」

ウェイタは、まいにち、しんばいしてオロオロしていました。

「もうしっばいしたくないから、とびばこなんてやらないぞ。

でも、2年生のうんどう会もとびばこだ。

きっとまたしっばいするにきまつてる、どうしよう。」

そんなふたりを見て、シェンタはおもいました。

「クータもウェイタも、まいにちくらいかおをして、わらわなくなっちゃった。

まえみたいに、3人でわらってすごしたいけれど、いったいどうしたらいいんだらう。」

そんなある日、シェンタが、こうえんのブランコにしょんぼりすわっていると、ハート王国の王様がとおりかかりました。けらいをつれて、おさんぽ中だったのです。

「おや、シェンタ。

しょんぼりして、いったいどうしたんじゃ。」

「あ、王様、こんにちは。じつは...」

シエンタはこれまでのことを話しました。そして、
「クータとウェイタに、またわらってもらいたいんです。」
と言いました。

王様は、うでをくんで、言いました。
「ふむ、そうか。
クータは、むかしのことばかりおもいだして、クヨクヨしている。
ウェイタは、先のことばかりかんがえて、オロオロしている。
ふたりがわすれてしまっていることがあるぞ。」

「え？それはなんですか？」
シエンタはみをのりだして、ききました。

すると王様は言いました。
「それはな、『今を生きる』ということじゃ。」

「今を生きる？」

「そうじゃよ。
『今』えがおになるには、『今』をかがやかせるしかないからのう。」

「『今』をかがやかせる？
そのためには、どうしたらいいんですか？」

「うむ。それはな、かんたんなことじゃ。
『今』目の前にあることに、ベストをつくせばいいんじゃ。」

「そうしたら、えがおになれるんですか？」

「そうじゃよ。
『今』目の前にあることにベストをつくせば、むかしのことも、先のこと、きぼうにかえることができるんじゃ。」

「きぼう！」

「うむ。」

シエンタは、目をかがやかせて言いました。

「王様、そうなんですね！

きぼうをもてば、きっとえがおになれますね！

ぼく、この話を、クータとウェイタにつたえます。

そして、3人でまいにち、とびばこのれんしゅうをすることにします。」

「ホッホッホッ。それはいいのう。」

シエンタから、王様の話をきいたクータとウェイタは、えがおをとりもどすために、『今』をがんばろうとおもいました。

そして、学校がおわるとまいにち、体育館に行き、3人でとびばこのれんしゅうをしました。

さいしょは、ころんでばかりで、ぜんぜんうまくいきませんでした。

でも3人は、「『今』ベストをつくそうよ！」をあいことばに、しっばいしても、しっばいしても、チャレンジしつづけました。

すると、ふしぎなことに、クータは、むかしのいやなことをおもいさなくなりました。

ウェイタは、先のことをしっばいすることがなくなりました。

どうやったら目の前のとびばこをとべるか、そのことで頭がいっぱいになったのです。

「もっと、ギリギリまではやく走ったらどうかな。」

「ジャンプのタイミングを少しはやくしてみよう。」

「足をもっと大きく広げたらいいんじゃないかな。」

3人は、しっばいをもとに、たくさんくふうをしました。

すると、だんだんと、とびばこをとべそうになってきたのです。

「さっきより、はやく走れたね。」

「足が、とびばこにひっかからなくなったね。」

「ジャンプするしせいが、よくなったね。」

ある日のばんごはんのとき、お父さんとお母さんが言いました。

「クータ、ウェイタ、シエンタ、さいきん、どうしたんだい？」

「あなたたち、なんだかとってもたのしそうよ。」

3人は、「え？」とかおを見あわせました。

気がつけば、3人はニコニコえがおになっていたのです。

そして、とうとうある日、3人とも、とびばこをじょうずにとぶことができました！

「やったー！」

「やっとなべたね！」

「ぼくたち、できたね！」

3人は だきあってよろこびました。

2年生のうんどう会では、3人はだれよりもじょうずにとびばこをとぶことができ、みんなのはくしゅかっさいをあびました。

しょうたいされた王様も、たくさんはくしゅを送りました。

それから、3人は、いろいろしっばいすることもありました。

でも、「今」にベストをつくすことをわすれなかったのも、どんなときも、ニコニコえがおでのりこえることができたのでした。